

こくふっこ

【教育目標】人間性豊かな たくましい子ども

【重点目標】ともに学び ともに歩み ともに伸びる子



「気付き 考え 実行する」ということ

校長 太田 敬祐



◆国府小正門から入ったグラウンドの道路脇に、ひまわりが大きく育ち、花が咲いています。

このひまわりは、6年生が地域にお住まいの笹川さんから苗をいただき、植える時にも教えていただきながら、大切に育ててきました。

私が特に感心しているのは、ひまわり畑の水やりをずっと自主的にしてくれている6年生のことです。6年生の大夢さん、絢冬さん、雄己さんなのですが、5月から毎日、毎日、晴れた日には、登校してから朝読書までの短い時間に広いひまわり畑の水やりをししてくれているのです。そこに、美玖さんなど6年生女子数人がお手伝いしてくれて、この水やりが続いています。

体育館の入り口にある50mホースを蛇口につなぎ、ホースをひまわり畑まで伸ばします。その後、少しずつ丁寧に水やりを進め、最後は50mのホースを巻き、片付けて終わります。言葉にするとこれだけですが、一緒にやってみるとかなり大変な作業です。水が中に入っている50mのホースはそれだけでかなりの重さがあります。6年生が不在の時、私も一人でやってみましたが、全ての作業を行うのは大変な労力です。この作業を3人は仲良く、楽しそうに進めるのです。それがこの1学期末までずっと続いています。

◆ 題名にある「気付き 考え 実行する」というのは国府小が大切にしている青少年赤十字活動(JRC)の態度目標です。もう少し詳しく書くと「困っている人、困っていることに気付き、どうしたらそれを解決できるか考え、自分のできる方法を実行する」ということです。青少年赤十字活動は、誰の心の中にも本来ある「やさしさ」や「思いやり」の心を引き出し、主体的に行動できる子どもを育てていくことを目標と

しています。そのことを端的に態度目標として表現したのが上記の言葉です。

◆ひまわりに毎朝自主的に水をやる姿は、まさに青少年赤十字が目指している子どもの姿に重なります。この他にも人には見えないところで、大なり小なりこのような行動をしている子がたくさんいます。例えば、6年生の宿泊体験学習で佐渡の宿根木を散策している

時、有名な三角家などの旧家に入る機会がありました。その時、ガイドさんが褒めてくれたのは、「国府小の子は履き物をきちんとそろえて中に入りますね。」ということでした。私も何人かの子どもが友達の靴もそろえていたのを目撃して嬉しくなりました。

◆学校生活の中には、時間割等によって決められた生活、行動の他に、このような「気付き 考え 行動する」姿がいたるところにあります。1学期末、「気付き 考え 実行する」子どもたちが育って来ていることをとても嬉しく感じています。

インターネットやSNSと正しく付き合っていくために

◆おととしから、国府小では情報モラルについての講演会を行っています。上越教育大学や新潟県警察からご協力いただきながら、全児童と保護者の皆さんが毎年学んでいます。

これから生きていく中で、ネットのもつよさや危険性を十分に理解した上で、人に迷惑をかけずに正しく使っていくことが大切です。

先日行われた5、6年生の講演会のポイントは3つでした。



1 個人情報を出さない！

動画や写真には知らないうちに個人情報が特定されるものが映り込む場合があります。背景や利用している場所などから居場所を特定されることがあります。

2 ネットいじめはやめよう！

ネットで人を馬鹿にすることも犯罪です。スマホやパソコンには番号があり、警察が調べるとすぐに持ち主や発信者は特定されます。「分からないだろう」というのは大きな間違いです。また、ネットにあげた情報を削除することはほとんど不可能です。

3 ネットで会った人には会わない！

残念なことですが、ネット情報を悪用しようという人が少なくないのが現状です。相手の巧妙ななりすましで、被害に合う子どもたちが後をたちません。

LINEには開発チームの思いや願いが込められています！

◆多くの方が利用していると思われるLINE。最新の調査では日本国内で8600万人が利用しているとのこと。

さて、皆さんはLINEが誕生した理由や既読機能がある理由をご存じでしょうか？LINEにはその当時の開発チームの熱い思いや願いが込められているのです。

LINEがリリースされたのは2011年6月23日です。その年、3月11日には東日本大震災がありました。この時にはメールや電話などの通信機能は完全に停止して、地震発生後すぐに連絡をとる手段がなくなったのです。

このような状況を何とかしたいと思って開発されたのがLINEです。実はLINEの機能のポイントは「既読機能」にあるのです。今も地震だけでなく、大雨や土砂災害などが身の回りに起きています。もし、その場に家族や親しい人がいたとしたら真っ先に気になるのは「無事かどうか」です。相手からの返信が無くとも無事が確認できるようにと搭載されたのが「既読機能」なのです。「大切な人が生きています」このことが確認できるだけでも、ホッとします。「既読機能」はLINE開発上、一番大切な機能だったということです。ですから、この機能が不適切に使われることがあっても、開発チームは「既読機能は削除しない」と明言しているのです。

そして、「人と人とが線のようにつながってられるように」という願いを込めて「LINE」と名前がつけられました。

連絡がつかなくなった当時を繰り返さないように、常に連絡が取り合えるようにと開発されたLINE。開発チームの意図をくみ取り、正しく使っていきたいですね。